

中学3年 かんたん国語マスター

月	章	内容	教科書	日付	点数	印刷	解答
4	1	生命は	巻頭	/	点	3	95
	2	二つのアザミ	14～16	/	点	4	96
	3	俳句①②	18～25	/	点	5～6	97～98
5	4	和語・漢語・外来語	26～27	/	点	7	99
	5	形①②	30～35	/	点	8～9	100～101
	6	百科事典少女①②③④	37～51	/	点	10～13	102～105
6	7	評価しながら聞こう	52～55	/	点	14	106
	8	間違えやすい敬語	56～57	/	点	15	107
	9	熟語の構成	58～60	/	点	16	108
7	10	絶滅の意味①②③	63～73	/	点	17～19	109～111
	11	編集して伝えよう	74～81	/	点	20	112
	12	連語・慣用句・故事成語	82～83	/	点	21	113
9	13	恩返しの井戸を掘る①②③	86～91	/	点	22～24	114～116
	14	幸福について①②	96～105	/	点	25～26	117～118
	15	観察・分析して論じよう	106～113	/	点	27	119
10	16	場面に応じて話そう	114～120	/	点	28	120
	17	初恋	124～125	/	点	29	121
	18	万葉・古今・新古今①②③	128～134	/	点	30～32	122～124
11	19	おくのほそ道①②③	135～143	/	点	33～35	125～127
	20	論語①②	144～147	/	点	36～37	128～129
	21	古典の言葉	148～149	/	点	38	130
12	22	言葉の移り変わり	150～151	/	点	39	131
	23	故郷①②③④	154～170	/	点	40～43	132～135
	24	何のために「働く」のか①②	172～177	/	点	44～45	136～137
1	25	いつものように新聞が届いた①②③	184～195	/	点	46～48	138～140
	26	話し合いで意見をまとめよう	196～202	/	点	49	141
	27	今の思いをまとめよう	203～207	/	点	50	142
2	28	レモン哀歌/生ましめんかな	210～213	/	点	51	143
	29	最後の一句①②③④	214～230	/	点	52～55	144～147
	30	言葉の単位と文の成分①②	258～266	/	点	56～57	148～149
	31	活用しない語①②	258～266	/	点	58～59	150～151
	32	活用する語①②	258～266	/	点	60～61	152～153
	33	曖昧な文・分かりづらい文	260～261	/	点	62	154
3	34	風の唄①②	268～280	/	点	63～64	155～156
	35	自然との共存	281～286	/	点	65	157
	36	恋歌をよむ	292～294	/	点	66	158
	37	「おくのほそ道」の旅	295～297	/	点	67	159
	38	古典の文法	298～301	/	点	68	160

中学3年 かんたん国語マスター (漢字練習)

月	章	内容	日付			点数	印刷
4	1	二つのアザミ/俳句/本文以外の漢字	/	/	/	点	69
	2	形/本文以外の漢字	/	/	/	点	70
5	3	百科事典少女	/	/	/	点	71
	4	百科事典少女	/	/	/	点	72
6	5	熟語の構成・熟字訓	/	/	/	点	73
	6	熟語の構成・熟字訓	/	/	/	点	74
7	7	絶滅の意味	/	/	/	点	75
	8	連語・慣用語/四字熟語	/	/	/	点	76
9	9	恩返しの井戸を掘る/幸福について	/	/	/	点	77
	10	送り仮名	/	/	/	点	78
10	11	万葉・古今・新古今/おくのほそ道/論語	/	/	/	点	79
	12	故郷	/	/	/	点	80
11	13	故郷	/	/	/	点	81
	14	紛らわしい漢字	/	/	/	点	82
12	15	何のために「働く」のか/新聞が届いた/文法まとめ	/	/	/	点	83
	16	間違いやすい言葉	/	/	/	点	84
1	17	間違いやすい言葉/本文以外の漢字	/	/	/	点	85
	18	最後の一句 / 本文以外の漢字	/	/	/	点	86
	19	本文以外の漢字	/	/	/	点	87
	20	本文以外の漢字	/	/	/	点	88
	21	本文以外の漢字	/	/	/	点	89
2	22	本文以外の漢字	/	/	/	点	90
	23	同訓異字語	/	/	/	点	91
	24	同音異義語	/	/	/	点	92
	25	四字熟語	/	/	/	点	93
	26	ことわざ	/	/	/	点	94

このテキストの使い方

- ① 文を声に出して読んで、読み方を覚えます。
- ② 右の列をかくして、漢字の読み方を思い浮かべ、正解したら○、間違ったら×を、チェック欄に書きます。
(×になった漢字は、読み方をなぞって書きましょう。)
- ③ 三日後と七日後に、②をくり返します。
- ④ ③が終わったら、漢字をなぞって練習し、書き方を覚えます。
- ⑤ 左の列をかくして、空欄に漢字を書きます。
- ⑥ 1問5点で、合計80点以上で合格です。80点以下の場合は、もう一度挑戦しましょう。

俳句は、五・七・五の十七音からなる定型詩で、五・七・五のまとまりを、それぞれ「上五」「中七」「下五」とよびます。

基本の十七音より音数が多いものを字余り、音数が少ないものを字足らずといいます。

また、五・七・五の定型によらない俳句を「自由律俳句」といいます。例) 分け入つても 分け入つても 青い山 (六・六・五)

季語は、季節を表す言葉で、原則として俳句一句に一つ詠み込みます。季節は旧暦を元に分類され、現代より一月早いです。

季節ごとに季語を分類した本を歳時記といい、時候、天文、地理、生活、行事、動物、植物などの項目に分けられています。

- 春(二月・三月・四月) 季語…桜、梅、藤、たんぽぽ、かすみ、蛙、うぐいす、ひなまつり、種まき、雪解け
 夏(五月・六月・七月) 季語…あじさい、花いばら、万緑、ほととぎす、はえ、こいのぼり、行水、五月雨、梅雨、夕立、涼風
 秋(八月・九月・十月) 季語…朝顔、菊、すすき、とんぼ、渡り鳥、稲刈り、月、十五夜、天の川、いわし雲、残暑、
 冬(十一月・十二月・一月) 季語…大根、枯れ野、落ち葉、うさぎ、つる、七五三、師走、雪、霜、時雨、山眠る

季語があり、定型の俳句を「有季定型」、季語がなく、定型によらない俳句を「無季自由律」といいます。

季語との関連性のないものを俳句に取り入れて感動に導く表現技法を、取り合わせといいます。

例) たんぽぽや 日はいつまでも 大空に → 地上にある「たんぽぽ」から、大空にある「日(太陽)」へと空間を広げている。

歌の意味や調子の切れ目になるところを、区切れといいます。

句切れには、上五の切れ(初句切れ)、中七の切れ(二句切れ)、中七の中間切れ(中間切れ)、下五の切れがあります。

俳句の意味の切れ目に使われる「や」「かな」「けり」「なり」「よ」「ぬ」などを切れ字といい、感動の中心を表します。

俳句について説明した文の□に当てはまる言葉を書きましょう。(1点×10問=10点)

俳句は、□・□・□の□音で表現する□詩で、初句を□、第二句を□、結句を□とよびます。
 俳句には、季節を表す□を一句に一つ入れるという原則があります。
 これらの語を含む定型の俳句を□、これらの語がなく定型によらない俳句を□といえます。
 これらの語を季節ごとに分類してまとめた書物を□、または季寄せといいます。

次の季語が表す季節を書きましょう。(1点×30問=30点)

①	ほととぎす	②	うぐいす	③	うさぎ	④	とんぼ	⑤	枯れ野
⑥	あじさい	⑦	菊	⑧	藤	⑨	月	⑩	時雨
⑪	かすみ	⑫	涼風	⑬	ひなまつり	⑭	十五夜	⑮	こいのぼり
⑯	七五三	⑰	桜	⑱	梅雨	⑲	残暑	⑳	霜
㉑	天の川	㉒	夕立	㉓	大根	㉔	万緑	㉕	たんぽぽ
㉖	すすき	㉗	雪解け	㉘	朝顔	㉙	種まき	㉚	山眠る

次の俳句の季語と季節を書きましょう。(2点×5問=10点)

①	草の戸も 住み替はる代ぞ 雛の家 [松尾芭蕉]	草ぶきの家も住み替わって雛の家になる。
②	ふるいけや 蛙飛びこむ 水のおと [松尾芭蕉]	ふるいけに蛙が飛びこんだ時の水の音。
③	さみだれや 大河を前に 家二軒 [与謝蕪村]	さみだれの続く大河の前に家が二軒ある。
④	いなびかり 北よりすれば 北を見る [橋本多佳子]	北の空で稲光がしたので北を見た。
⑤	やれ打つな 蠅が手を摺り 足をする [小林一茶]	これ、たたくな、蠅が手をすり足をする。

次の俳句の切れ字を抜き出し、句切れを下から一つ選んで記号で書きましょう。(2点×5問=10点)

①	春風や 闘志だきて 丘に立つ [高浜虚子]	春風が吹き、闘志を抱いて丘に立っている。
②	硝子の 魚おどろきぬ けさの秋 [与謝蕪村]	今朝の涼しさに金魚鉢の魚が驚いている。
③	ゆさゆさと 大枝ゆるる 桜かな [中村鬼城]	ゆさゆさと大きな枝をゆらしている桜だなあ。
④	万緑の 中や吾子の 歯生えそむる [中村草田男]	万緑の中で、わが子の歯が生え始めた。
⑤	囀を こそさじと抱く 大樹かな [星野立子]	囀る鳥を守るように枝を広げる大樹だなあ。

ア 上五の切れ(初句切れ) イ 中七の切れ(二句切れ) ウ 中七の中間切れ(中間切れ) エ 下五の切れ

4 和語・漢語・外来語

教科書

26～27

点

和語は、もともと日本にあった語で、ひらがなや漢字の訓読みが多いです。

例) 泳ぎ、速さ、宿、始める

漢語は、中国から取り入れた語で、漢字の音読みが多いです。

例) 水泳、速度、旅館、開始する

外来語は、中国以外の外国から取り入れた語で、かたかなが多いです。

例) スイミング、スピード、ホテル、スタート

次の言葉が和語なら和、漢語なら漢、外来語なら外と書きましょう。(1点×20問=20点)

① 家	② ミルク	③ パン	④ 天	⑤ 逆立ち
⑥ ピアノ	⑦ 広場	⑧ 先頭	⑨ 見学	⑩ たばこ
⑪ 砂糖	⑫ 合羽	⑬ 青空	⑭ 音楽	⑮ カード
⑯ 漫画	⑰ かるた	⑱ 弾く	⑲ ほん本	⑳ ゆっくり

次の外来語と同じ意味を表す和語と漢語を下から選んで書きましょう。(2点×8問=16点)

① スピード 和語… 漢語…	② ランチ 和語… 漢語…	③ ルール 和語… 漢語…	④ ドリンク 和語… 漢語…				
⑤ マーク 和語… 漢語…	⑥ ライフ 和語… 漢語…	⑦ スイミング 和語… 漢語…	⑧ ホテル 和語… 漢語…				
記号	規則	昼ごはん	飲料	宿	速さ	旅館	昼食
速度	泳ぎ	きまり	くらし	生活	しるし	飲み物	水泳

次の言葉を外来語でどのように表すか、□に合わせて書きましょう。(2点×8問=16点)

① 便所 ト□□	② こよみ カ□ン□ー	③ 食堂 □ス□ラ□	④ 献立 □=□ー
⑤ 台所 キ□□ン	⑥ 運動着 ジ□□ジ	⑦ 喫茶店 カ□□	⑧ 試合 □□ム

和語としての読み方をひらがなで、漢語としての読み方をカタカナで書きましょう。(2点×12問=24点)

① 水車 和語… 漢語…	② 草原 和語… 漢語…	③ 市場 和語… 漢語…	④ 風車 和語… 漢語…
⑤ 春風 和語… 漢語…	⑥ 足跡 和語… 漢語…	⑦ 雷雲 和語… 漢語…	⑧ 色紙 和語… 漢語…
⑨ 昨日 和語… 漢語…	⑩ 見物 和語… 漢語…	⑪ 大事 和語… 漢語…	⑫ 年月 和語… 漢語…

漢語を和語に直しましょう。(1点×24問=24点)

① 生物	② 登山	③ 道路	④ 全員
⑤ 説明書	⑥ 海水	⑦ 病気	⑧ 朝食
⑨ 新鮮な	⑩ 柔軟な	⑪ 巨大な	⑫ 困難な
⑬ 親切な	⑭ 危険な	⑮ 高価な	⑯ 幸福な
⑰ 集合する	⑱ 開始する	⑲ 調査する	⑳ 決定する
㉑ 確認する	㉒ 通知する	㉓ 休憩する	㉔ 比較する

9 熟語の構成

教科書

58~60

点

二字熟語の構成は次の10種類に分類できます。

- | | |
|---|--|
| ① <u>対</u> になる。
例) <u>男女</u> 、 <u>父母</u> | ⑥ <u>主・述</u> の <u>関係</u> にある。
例) <u>市営</u> 、 <u>頭痛</u> |
| ② <u>似た意味</u> を持つ。
例) <u>禁止</u> 、 <u>絵画</u> | ⑦ <u>連体修飾・被修飾</u> の <u>関係</u> にある。
例) <u>鉄橋</u> 、 <u>雪原</u> |
| ③ <u>同じ漢字を重ねたもの</u> (<u>畳語</u>)。
例) <u>月々</u> 、 <u>色々</u> | ⑧ <u>連用修飾・被修飾</u> の <u>関係</u> にある。
例) <u>最適</u> 、 <u>再会</u> |
| ④ <u>接頭語</u> (<u>不</u> 、 <u>無</u> 、 <u>未</u> など)が付く。
例) <u>不満</u> 、 <u>無料</u> | ⑨ <u>下の字が対象や目的</u> を示す。
例) <u>乗馬</u> 、 <u>読書</u> |
| ⑤ <u>接尾語</u> (<u>的</u> 、 <u>性</u> 、 <u>化</u> など)が付く。
例) <u>知的</u> 、 <u>酸性</u> | ⑩ <u>長い語を省略</u> して短くしたもの。
例) <u>日赤</u> 、 <u>空母</u> |

主・述の関係とは、何が どうするや、何が どんなという関係です。
 例) 町立 → 町が立てる、腰痛 → 腰が痛い
 連体修飾・被修飾の関係とは、どんな 何という関係です。
 例) 暖流 → 暖かい流れ、光線 → 光の線
 連用修飾・被修飾の関係とは、どのように どうするという関係です。
 例) 再現 → 再び現れる、後悔 → 後で悔いる

次の熟語を種類別に分けて書きましょう。(6点×10問=60点)

南北	前進	乗船	海底	地震	身体	堂々	未知	空爆	天性	登山	続々	上下	激減	美人
温暖	気絶	不安	原発	悪化	岩石	増減	非常	清流	切望	洗顔	人々	日昇	模試	私的
無害	曲線	明暗	特急	美化	久々	腹痛	追悼	創造	習字	農協	終始	急性	着席	不幸
円高	再発	再々	寒冷	強風	劇的	株安	損得	思考	転々	予知	決心	軍縮	未定	良心

①	上下が対になる。													
②	上下が似た意味を持つ。													
③	同じ漢字を重ねたもの(畳語)。													
④	接頭語が付く。													
⑤	接尾語が付く。													
⑥	主・述の関係にある。													
⑦	連体修飾・被修飾に関係にある。													
⑧	連用修飾・被修飾に関係にある。													
⑨	下の字が対象や目的を示している。													
⑩	長い語を省略して短くしたもの。													

三字熟語の構成として合うものを線で結びましょう。(2点×5問=10点)

①	三字それぞれが対等の関係にあるもの。	・	・	ふじゆう	むいみ	ひかせい	みこうかい
②	上の一字が下の二字を修飾するもの。	・	・	りくかいくう	こうそうしゆ	てんちじん	せつげつか
③	接頭語+二字語になっているもの。	・	・	にゅうがくしき	うんどうじょう	おんがくか	かいふくりよく
④	上の二字が下の一字を修飾するもの。	・	・	りそうてき	しよくぶつせい	じゆうか	げいじゆつてき
⑤	二字語+接尾語になっているもの。	・	・	ふくかいちよう	たんきかん	しんぱつばい	ちようじかん

次の三字熟語を種類別に分けて書きましょう。(6点×5問=30点)

英会話	入場券	不健康	心技体	高齢化	和洋中	未完成	再利用	人間性	観察眼
松竹梅	大中小	積極的	無防備	非常識	初対面	出席率	和楽器	近代化	首都圏
特異性	市町村	未開発	不合格	文化祭	衣食住	職員室	過保護	科学的	総選挙

①	三字それぞれが対等の関係にあるもの。								
②	上の一字が下の二字を修飾するもの。								
③	接頭語+二字語になっているもの。								
④	上の二字が下の一字を修飾するもの。								
⑤	二字語+接尾語になっているもの。								

孔子は、世の中が平和に治まるように、人格や道徳を重んじる儒教の思想を広めることに生涯を捧げた思想家です。

「論語」は、孔子とその弟子(顔淵、子路、子貢)のやりとりを記録した書物で、全20巻に512編の短文が収められています。

「論語」は、「子曰はく(先生が言われた)」で始まる文章が多く、「子」は「先生」という意味で、孔子のことを指しています。

A～Fの訓読文を書き下し文に直し、後の問いに答えましょう。(4点×13問=52点)

A 子曰ハク、「過チテ而不レ改メ、是ヲ謂フレ過ト矣。」

(先生が言われた、「過ちをしたのに改めない、⑦これを過ちというのだ。」と。)

B 子曰ハク、「君子ハ和シテ而不レ同ゼ。小人ハ同ジテ而不レ和セ。」

(先生が言われた、「⑧君子は人と調和するが何にでも賛成しない。つまらない人は何にでも賛成するが人と調和しない。」と。)

C 子曰ハク、「学ビテ而不レバ、思ハ則チ罔シ。思ヒテ而不レバ、学バ則チ殆フシ。」

(先生が言われた、「⑨学んでも思わないのは、つまり理解していないのだ。思っても学ばないのは、つまり危険なのだ。」と。)

D 子曰ハク、「知ルレ之ヲ者ハ、不レ如カニ好ムレ之ヲ者ニ。好ムレ之ヲ者ハ、不レ如カニ楽シムレ之ヲ者ニ。」

(先生が言われた、「⑩これを知る者は、これを好む者に及ばない。これを好む者は、これを楽しむ者に及ばない。」と。)

E 子貢問ヒテ曰ハク、「有リ下一言ニシテ而可キニ以ツテ終身行フ之ヲ者上乎。」

(⑪子貢が質問して言った、「一言で表せて一生行うにふさわしいことがあるでしょうか。」と。)

F 子曰ハク、「其レ恕乎。己ノ所ハ不レ欲セ勿カトレ施スコトニ於人ニ。」

(先生が言われた、「それは⑫恕であろうか。自分が望まないことは、他人にしてはならない。」と。)

① Aの書き下し文…

② Bの書き下し文…

③ Cの書き下し文…

④ Dの書き下し文…

⑤ Eの書き下し文…

⑥ Fの書き下し文…

⑦ 線⑦の「これ」の指す内容を、現代語で書きましょう。

⑧ 線⑧の「君子」の意味として適切なものを一つ選びましょう。

- | | | | |
|----------|---------|----------|-----------|
| ア 有名な政治家 | イ 優秀な少年 | ウ 人格のある人 | エ 権力をふるう人 |
|----------|---------|----------|-----------|

⑨ 線⑨で「学んでも思わないのは」とありますが、ここでの「思う」はどのような意味ですか。

- | | | | |
|--------------|-------------|-------------|----------------|
| ア 書物から知識を得る。 | イ 自分の力で考える。 | ウ 心で自然に感じる。 | エ 知ったことを人に伝える。 |
|--------------|-------------|-------------|----------------|

⑩ 線⑩の「これを知る者は～これを楽しむ者に及ばない。」の部分で、孔子が伝えたかったのはどのようなことですか。

- | | | | |
|--------------|--------------|----------------|----------------|
| ア 楽しむことが大切だ。 | イ 練習が上達の近道だ。 | ウ 好きだけでは上達しない。 | エ 苦手なことに挑むべきだ。 |
|--------------|--------------|----------------|----------------|

⑪ 線⑪で「子貢が質問して言った」とありますが、誰が誰に質問したのですか。

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| ア 先生が弟子に | イ 弟子が先生に | ウ 弟子が弟子に | エ 先生が孔子に |
|----------|----------|----------|----------|

⑫ 線⑫の「恕」の意味として適切なものを一つ選びましょう。

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| ア 怒りの心 | イ 願いごと | ウ 正義の心 | エ 思いやり |
|--------|--------|--------|--------|

⑬ 「孔子」について説明した文の□に当てはまる言葉を書きましょう。

孔子は、人格や道徳を重んじる□□の思想を広めた思想家で、弟子とのやりとりを記録した書物を□□という。

33 曖昧な文・分かりづらい文

教科書
260～261

点

曖昧な文は、「読点を打つ」か「語順を入れ替える」か「二文に分ける」と分かりやすい文に直すことができます。

例) 母はいつも頑張る私をほめてくれる。→「いつも頑張る」のか「いつもほめる」のか曖昧。

読点を打つ…母は、いつも頑張る私をほめてくれる。(いつも頑張る) 母はいつも、頑張る私をほめてくれる。(いつもほめる)

語順を入れ替える…いつも頑張る私を母はほめてくれる。(いつも頑張る) 頑張る私を母はいつもほめてくれる。(いつもほめる)

指示に従って、曖昧な文を分かりやすい文に直しましょう。(12点×5問=60点)

①	父親は急いで出発する息子を追いかけた。	
	読点を打って、「父親が急いでいる」という意味に。	
	読点を打って、「息子が急いでいる」という意味に。	
	語順を入れ替えて、「父親が急いでいる」という意味に。	
	語順を入れ替えて、「息子が急いでいる」という意味に。	
②	私は笑いながら走る妹に手を振った。	
	読点を打って、「笑いながら走る」という意味に。	
	読点を打って、「笑いながら手を振る」という意味に。	
	語順を入れ替えて、「笑いながら走る」という意味に。	
	語順を入れ替えて、「笑いながら手を振る」という意味に。	
③	兄は時々やってくる祖父と話をします。	
	読点を打って、「時々やってくる」という意味に。	
	読点を打って、「時々話をします」という意味に。	
	語順を入れ替えて、「時々やってくる」という意味に。	
	語順を入れ替えて、「時々話をします」という意味に。	
④	母は静かに私が話すのを聞いていた。	
	読点を打って、「静かに話す」という意味に。	
	読点を打って、「静かに聞いていた」という意味に。	
	語順を入れ替えて、「静かに話す」という意味に。	
	語順を入れ替えて、「静かに聞いていた」という意味に。	
⑤	妹は昨日書いた日記を破った。	
	読点を打って、「昨日書いた」という意味に。	
	読点を打って、「昨日破った」という意味に。	
	語順を入れ替えて、「昨日書いた」という意味に。	
	語順を入れ替えて、「昨日破った」という意味に。	

読点を打ち、語順を入れ替えて、より分かりやすい文に直しましょう。(10点×2問=20点)

①	彼は私が彼に昨日頼まれたことを忘れていたと思ったようだ。
②	鈴木君とサッカーを近所の公園でしている時に昨日ボールが道路に転がっていった。

長い文を二文に分けて、より分かりやすい文に直しましょう。(10点×2問=20点)

①	僕の家の方に住んでいる田中君のいとこの大学生のお兄さんには子供の頃によく遊んでもらった。
②	先週公民館の近くにある以前から興味を持っていた伝統工芸品の竹細工の工房へ見学に行った。

38 古典の文法

教科書
298～301

点

古典の動詞の活用は、未然形(…ず)、連用形(…て)、終止形(…。)、連体形(…もの)、已然形(…ども)、命令形(…！)です。
動詞の活用は九種類で、未然形の「…ず」をつけて、ア段になるのが「四段活用」「ラ行変格活用」「ナ行変格活用」、イ段になるのが「上一段活用」「上二段活用」、エ段になるのが「下一段活用」「下二段活用」です。

四段活用 …ア・イ・ウ・エの四段で活用する。

例) 喜(ばず)(びて)(ぶ。)(ぶもの)(べども)(べ！)

ラ行変格活用 …四段活用とは、終止形が違う。

例) 有(らず)(りて)(り。)(るもの)(れども)(れ！)

ナ行変格活用 …四段活用とは、連体形と已然形が違う。

例) 往(なず)(にて)(ぬ。)(ぬるもの)(ぬれども)(ぬ！)

カ行変格活用 …「来」だけの特殊な活用。

例) 来(こず)(きて)(く。)(くるもの)(くれども)(こよ！)

サ行変格活用 …「為」だけの特殊な活用。

例) 為(せず)(して)(す。)(するもの)(すれども)(せよ！)

上一段活用 …イ段だけで活用する。

例) 見(みず)(みて)(みる。)(みるもの)(みれども)(みよ！)

上二段活用 …イ・ウの二段で活用する。

例) 起(きず)(きて)(く。)(くるもの)(くれども)(きよ！)

下一段活用 …エ段だけで活用する。

例) 蹴(けず)(けて)(ける。)(けるもの)(けれども)(けよ！)

下二段活用 …ウ・エの二段で活用する。

例) 受(けず)(けて)(く。)(くるもの)(くれども)(けよ！)

空欄に語幹・活用語尾・活用の種類を入れて、動詞の活用表を完成しましょう。(6点×10問=60点)

	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
①	売る								
②	着る								
③	居(を)り								
④	蹴る								
⑤	捨つ								
⑥	死ぬ								
⑦	思ふ								
⑧	来								
⑨	落つ								
⑩	す								

古典の助動詞には、「～している」という完了の存続を表す「たり」や、「～した」という過去を表す「けり」などがあります。

古典の助動詞の終止形はイ段で終わるものが多いです。例) たり…(たらず)(たりて)(たり。)(たるもの)(たれども)(たれ！)

「ぞ・なむ・や・か」がつくと文末が連体形(ウ段)、「こそ」がつくと文末が已然形(エ段)になることを、係り結びの法則といいます。

係助詞の「ぞ・なむ・こそ」は、前の語を強調します。

例) 花こそ咲きたれ。「花が咲いている。(花を強調)」

係助詞の「や」は、「はい/いいえ」で答えられる疑問を表します。

例) 花や咲きたる。「花が咲いているのか？」

係助詞の「か」は、「はい/いいえ」で答えられない疑問を表します。

例) いづくにか花咲きたる。「どこで花が咲いているのか？」

次の文の「A 現代語訳」「B 係りの語」「C 結びの語」「D 結びの語の活用の種類」を書きましょう。(5点×8問=40点)

①	雨ぞ降りたる。	A…	B…	C…	D…
②	雨こそ降りたれ。	A…	B…	C…	D…
③	雨や降りたる。	A…	B…	C…	D…
④	いづくにか雨降りたる。	A…	B…	C…	D…
⑤	雪なむ降りける。	A…	B…	C…	D…
⑥	雪こそ降りけれ。	A…	B…	C…	D…
⑦	雪や降りける。	A…	B…	C…	D…
⑧	いづくにか雪降りける。	A…	B…	C…	D…

読み方を三回確認したら、漢字を書けるかテストしましょう。(5点×20問=100点)

お城の <u>堀</u> <small>しろ</small>	お城の <u>ほり</u> <small>しろ</small>	
野望を打ち <u>砕く</u> <small>やぼう う</small>	野望を打ち <u>くだく</u> <small>やぼう う</small>	
<u>漆</u> 塗りの器 <small>ぬ つわ</small>	<u>うるし</u> 塗りの器 <small>ぬ つわ</small>	
貯金で <u>賄う</u> <small>ちよきん</small>	貯金で <u>まかなう</u> <small>ちよきん</small>	
白菜の <u>漬</u> け物 <small>はくさい</small>	白菜の <u>つけ</u> もの <small>はくさい</small>	
風 <u>薫</u> る季節 <small>かぜ きせつ</small>	風 <u>かお</u> る季節 <small>かぜ きせつ</small>	
<u>岬</u> の灯台 <small>とうだい</small>	<u>みさき</u> の灯台 <small>とうだい</small>	
<u>著</u> しい寒さ <small>さむさ</small>	<u>いちじ</u> るしい寒さ <small>さむさ</small>	
<u>厳</u> かな神社 <small>じんじゃ</small>	<u>おごそ</u> かな神社 <small>じんじゃ</small>	
<u>健</u> やかな心 <small>こころ</small>	<u>すこ</u> やかな心 <small>こころ</small>	
<u>但</u> し書きを読む <small>がき</small>	<u>た</u> だし書きを読む <small>がき</small>	
<u>貴</u> い教え <small>おし</small>	<u>と</u> おとい教え <small>おし</small>	
<u>甚</u> だ残念だ <small>ざんねん</small>	<u>は</u> なはだ残念だ <small>ざんねん</small>	
<u>煩</u> 雑な作業 <small>さぎょう</small>	<u>はん</u> ざつな作業 <small>さぎょう</small>	
<u>朗</u> らかな表情 <small>ひょうじょう</small>	<u>お</u> おらかな表情 <small>ひょうじょう</small>	
<u>専</u> ら外食だ <small>がいしょく</small>	<u>も</u> つぱら外食だ <small>がいしょく</small>	
<u>災</u> いを避ける <small>さ</small>	<u>わ</u> ざわいを避ける <small>さ</small>	
着物を <u>商</u> う <small>きもの</small>	着物を <u>あ</u> きなう <small>きもの</small>	
時間を <u>費</u> やす <small>じかん</small>	時間を <u>つ</u> いやす <small>じかん</small>	
水が <u>漏</u> れる <small>みず</small>	水が <u>も</u> れる <small>みず</small>	

読み方を三回確認したら、漢字を書けるかテストしましょう。(5点×20問=100点)

今年の <u>抱負</u> を述べる	今年の <u>ほうふ</u> を述べる	
資源の <u>豊富</u> な国	資源の <u>ほうふ</u> な国	
先生の <u>指示</u> に従う	先生の <u>しじ</u> に従う	
彼の意見を <u>支持</u> する	彼の意見を <u>しじ</u> する	
通行を <u>規制</u> する	通行を <u>きせい</u> する	
<u>既成</u> の事実	<u>きせい</u> の事実	
段落の <u>構成</u>	段落の <u>こうせい</u>	
少年を <u>更生</u> させる	少年を <u>こうせい</u> させる	
病人を <u>介抱</u> する	病人を <u>かいほう</u> する	
人質を <u>解放</u> する	人質を <u>かいほう</u> する	
校庭を <u>開放</u> する	校庭を <u>かいほう</u> する	
音楽を <u>鑑賞</u> する	音楽を <u>かんしょう</u> する	
<u>観賞</u> 用の植物	<u>かんしょう</u> 用の植物	
他人に <u>干渉</u> する	他人に <u>かんしょう</u> する	
<u>感心</u> な態度	<u>かんしん</u> な態度	
<u>寒心</u> に堪えない事件	<u>かんしん</u> に堪えない事件	
政治に <u>関心</u> をもつ	政治に <u>かんしん</u> をもつ	
中学生が <u>対象</u> の本	中学生が <u>たいしょう</u> の本	
左右 <u>対称</u> の図形	左右 <u>たいしょう</u> の図形	
<u>対照</u> 的な二人	<u>たいしょう</u> 的な二人	

3 俳句①

教科書

18～25

点

俳句は、五・七・五の十七音からなる定型詩で、五・七・五のまとまりを、それぞれ「上五」「中七」「下五」とよびます。

基本の十七音より音数が多いものを字余り、音数が少ないものを字足らずといいます。

また、五・七・五の定型によらない俳句を「自由律俳句」といいます。例) 分け入つても 分け入つても 青い山 (六・六・五)

季語は、季節を表す言葉で、原則として俳句一句に一つ詠み込みます。季節は旧暦を元に分類され、現代より一月早いです。

季節ごとに季語を分類した本を歳時記といい、時候、天文、地理、生活、行事、動物、植物などの項目に分けられています。

- 春(二月・三月・四月) 季語…桜、梅、藤、たんぽぽ、かすみ、蛙、うぐいす、ひなまつり、種まき、雪解け
- 夏(五月・六月・七月) 季語…あじさい、花いばら、万緑、ほととぎす、はえ、こいのぼり、行水、五月雨、梅雨、夕立、涼風
- 秋(八月・九月・十月) 季語…朝顔、菊、すすき、とんぼ、渡り鳥、稲刈り、月、十五夜、天の川、いわし雲、残暑、
- 冬(十一月・十二月・一月) 季語…大根、枯れ野、落ち葉、うさぎ、つる、七五三、師走、雪、霜、時雨、山眠る

季語があり、定型の俳句を「有季定型」、季語がなく、定型によらない俳句を「無季自由律」といいます。

季語との関連性のないものを俳句に取り入れて感動に導く表現技法を、取り合わせといいます。

例) たんぽぽや 日はいつまでも 大空に → 地上にある「たんぽぽ」から、大空にある「日(太陽)」へと空間を広げている。

歌の意味や調子の切れ目になるところを、区切れといいます。

句切れには、上五の切れ(初句切れ)、中七の切れ(二句切れ)、中七の中間切れ(中間切れ)、下五の切れがあります。

俳句の意味の切れ目に使われる「や」「かな」「けり」「なり」「よ」「ぬ」などを切れ字といい、感動の中心を表します。

俳句について説明した文の□に当てはまる言葉を書きましょう。(1点×10問=10点)

俳句は、**五・七・五**の**十七音**で表現する**定型**詩で、初句を**上五**、第二句を**中七**、結句を**下五**とよびます。

俳句には、季節を表す**季語**を一句に一つ入れるという原則があります。

これらの語を含む定型の俳句を**有季定型**、これらの語がなく定型によらない俳句を**無季自由律**といいます。

これらの語を季節ごとに分類してまとめた書物を**歳時記**、または季寄せといいます。

次の季語が表す季節を書きましょう。(1点×30問=30点)

①	ほととぎす	夏	②	うぐいす	春	③	うさぎ	冬	④	とんぼ	秋	⑤	枯れ野	冬
⑥	あじさい	夏	⑦	菊	秋	⑧	藤	春	⑨	月	秋	⑩	時雨	冬
⑪	かすみ	春	⑫	涼風	夏	⑬	ひなまつり	春	⑭	十五夜	秋	⑮	こいのぼり	夏
⑯	七五三	冬	⑰	桜	春	⑱	梅雨	夏	⑲	残暑	秋	⑳	霜	冬
㉑	天の川	秋	㉒	夕立	夏	㉓	大根	冬	㉔	万緑	夏	㉕	たんぽぽ	春
㉖	すすき	秋	㉗	雪解け	春	㉘	朝顔	秋	㉙	種まき	春	㉚	山眠る	冬

次の俳句の季語と季節を書きましょう。(2点×5問=10点)

①	草の戸も 住み替はる代ぞ 雛の家 [松尾芭蕉]	草ぶきの家も住み替わって雛の家になる。	雛	春
②	古池や 蛙飛びこむ 水のおと [松尾芭蕉]	古池に蛙が飛びこんだ時の水のおと。	蛙	春
③	五月雨や 大河の前に 家二軒 [与謝蕪村]	五月雨の続く大河の前に家が二軒ある。	五月雨	夏
④	いなびかり 北よりすれば 北を見る [橋本多佳子]	北の空で稲光がしたので北を見た。	いなびかり	秋
⑤	やれ打つな 蠅が手を摺り 足をする [小林一茶]	これ、たたくな、蠅が手をすり足をする。	蠅	夏

次の俳句の切れ字を抜き出し、句切れを下から一つ選んで記号で書きましょう。(2点×5問=10点)

①	春風や 闘志いだきて 丘に立つ [高浜虚子]	春風が吹き、闘志を抱いて丘に立っている。	や	ア
②	硝子の 魚おどろきぬ けさの秋 [与謝蕪村]	今朝の涼しさに金魚鉢の魚が驚いている。	ぬ	イ
③	ゆさゆさと 大枝ゆるる 桜かな [中村鬼城]	ゆさゆさと大きな枝をゆらしている桜だなあ。	かな	エ
④	万緑の 中や吾子の 歯生えそむる [中村草田男]	万緑の中で、わが子の歯が生え始めた。	や	ウ
⑤	囀を こそさしと抱く 大樹かな [星野立子]	囀る鳥を守るように枝を広げる大樹だなあ。	かな	エ

ア 上五の切れ(初句切れ) イ 中七の切れ(二句切れ) エ 中七の中間切れ(中間切れ) ウ 下五の切れ

4 和語・漢語・外来語

教科書

26～27

点

和語は、もともと日本にあった語で、ひらがなや漢字の訓読みが多いです。

例) 泳ぎ、速さ、宿、始める

漢語は、中国から取り入れた語で、漢字の音読みが多いです。

例) 水泳、速度、旅館、開始する

外来語は、中国以外の外国から取り入れた語で、かたかなが多いです。

例) スイミング、スピード、ホテル、スタート

次の言葉が和語なら和、漢語なら漢、外来語なら外と書きましょう。(1点×20問=20点)

① 家	和	② ミルク	外	③ パン	外	④ 天	漢	⑤ 逆立ち	和
⑥ ピアノ	外	⑦ 広場	和	⑧ 先頭	漢	⑨ 見学	漢	⑩ たばこ	外
⑪ 砂糖	漢	⑫ 合羽	外	⑬ 青空	和	⑭ 音楽	漢	⑮ カード	外
⑯ 漫画	漢	⑰ かるた	外	⑱ 弾く	和	⑲ ほん本	漢	⑳ ゆっくり	和

次の外来語と同じ意味を表す和語と漢語を下から選んで書きましょう。(2点×8問=16点)

① スピード 和語…速さ 漢語…速度	② ランチ 和語…昼ごはん 漢語…昼食	③ ルール 和語…きまり 漢語…規則	④ ドリンク 和語…飲み物 漢語…飲料				
⑤ マーク 和語…しるし 漢語…記号	⑥ ライフ 和語…くらし 漢語…生活	⑦ スイミング 和語…泳ぎ 漢語…水泳	⑧ ホテル 和語…宿 漢語…旅館				
記号	規則	昼ごはん	飲料	宿	速さ	旅館	昼食
速度	泳ぎ	きまり	くらし	生活	しるし	飲み物	水泳

次の言葉を外来語でどのように表すか、□に合わせて書きましょう。(2点×8問=16点)

① 便所 トイレ	② こよみ カレンダー	③ 食堂 レストラン	④ 献立 メニュー
⑤ 台所 キッチン	⑥ 運動着 ジャージ	⑦ 喫茶店 カフェ	⑧ 試合 ゲーム

和語としての読み方をひらがなで、漢語としての読み方をカタカナで書きましょう。(2点×12問=24点)

① 水車 和語…みずぐるま 漢語…スイシャ	② 草原 和語…くさはら 漢語…ソウゲン	③ 市場 和語…いちば 漢語…シジョウ	④ 風車 和語…かざぐるま 漢語…フウシャ
⑤ 春風 和語…はるかぜ 漢語…シュンプウ	⑥ 足跡 和語…あしあと 漢語…ソクセキ	⑦ 雷雲 和語…かみなりぐも 漢語…ライウン	⑧ 色紙 和語…いろがみ 漢語…シキシ
⑨ 昨日 和語…きのう 漢語…サクジツ	⑩ 見物 和語…みもの 漢語…ケンブツ	⑪ 大事 和語…おおごと 漢語…ダイジ	⑫ 年月 和語…としつき 漢語…ネンゲツ

漢語を和語に直しましょう。(1点×24問=24点)

① 生物	生き物	② 登山	山登り	③ 道路	道	④ 全員	みんな
⑤ 説明書	手引き	⑥ かいすい	海の水	⑦ びょうき	病	⑧ ちょうしょく	朝ごはん
⑨ しんせん	新しい	⑩ じゅうなん	柔らかい	⑪ きょだい	大きい	⑫ こんなん	難しい
⑬ しんせつ	優しい	⑭ きけん	危ない	⑮ こうか	高い	⑯ こうふく	幸せな
⑰ しゅうごう	集まる	⑱ かいし	始める	⑲ ちゅうさ	調べる	⑳ けつてい	決める
㉑ かくにん	確かめる	㉒ つうち	知らせる	㉓ きゅうけい	休む	㉔ ひかく	比べる

9 熟語の構成

教科書

58~60

点

二字熟語の構成は次の10種類に分類できます。

- | | |
|--|--|
| ① <u>対</u> になる。
例) <u>男女</u> 、 <u>父母</u> | ⑥ <u>主・述</u> の <u>関係</u> にある。
例) <u>市営</u> 、 <u>頭痛</u> |
| ② <u>似た意味</u> を持つ。
例) <u>禁止</u> 、 <u>絵画</u> | ⑦ <u>連体修飾・被修飾</u> の <u>関係</u> にある。
例) <u>鉄橋</u> 、 <u>雪原</u> |
| ③ <u>同じ漢字を重ねたもの</u> (<u>畳語</u>)。
例) <u>月々</u> 、 <u>色々</u> | ⑧ <u>連用修飾・被修飾</u> の <u>関係</u> にある。
例) <u>最適</u> 、 <u>再会</u> |
| ④ <u>接頭語</u> (不、無、未など)が付く。
例) <u>不満</u> 、 <u>無料</u> | ⑨ <u>下の字が対象や目的</u> を示す。
例) <u>乗馬</u> 、 <u>読書</u> |
| ⑤ <u>接尾語</u> (的、性、化など)が付く。
例) <u>知的</u> 、 <u>酸性</u> | ⑩ <u>長い語を省略</u> して短くしたもの。
例) <u>日赤</u> 、 <u>空母</u> |

主・述の関係とは、何が どうするや、何が どんなだという関係です。
 例) 町立 → 町が立てる、腰痛 → 腰が痛い

連体修飾・被修飾の関係とは、どんな 何という関係です。
 例) 暖流 → 暖かい流れ、光線 → 光の線

連用修飾・被修飾の関係とは、どのように どうするという関係です。
 例) 再現 → 再び現れる、後悔 → 後で悔いる

次の熟語を種類別に分けて書きましょう。(6点×10問=60点)

南北	前進	乗船	海底	地震	身体	堂々	未知	空爆	天性	登山	続々	上下	激減	美人
温暖	気絶	不安	原発	悪化	岩石	増減	非常	清流	切望	洗顔	人々	日昇	模試	私的
無害	曲線	明暗	特急	美化	久々	腹痛	追悼	創造	習字	農協	終始	急性	着席	不幸
円高	再発	再々	寒冷	強風	劇的	株安	損得	思考	転々	予知	決心	軍縮	未定	良心

①	上下が対になる。	南北	上下	増減	明暗	終始	損得
②	上下が似た意味を持つ。	身体	温暖	岩石	創造	寒冷	思考
③	同じ漢字を重ねたもの(畳語)。	堂々	続々	人々	久々	再々	転々
④	接頭語が付く。	未知	不安	非常	無害	不幸	未定
⑤	接尾語が付く。	天性	悪化	私的	美化	急性	劇的
⑥	主・述の関係にある。	地震	気絶	日昇	腹痛	円高	株安
⑦	連体修飾・被修飾に関係にある。	海底	美人	清流	曲線	強風	良心
⑧	連用修飾・被修飾に関係にある。	前進	激減	切望	追悼	再発	予知
⑨	下の字が対象や目的を示している。	乗船	登山	洗顔	習字	着席	決心
⑩	長い語を省略して短くしたもの。	空爆	原発	模試	特急	農協	軍縮

三字熟語の構成として合うものを線で結びましょう。(2点×5問=10点)

①	三字それぞれが対等の関係にあるもの。	不自由、無意味、非課税、未公開
②	上の一字が下の二字を修飾するもの。	陸海空、攻走守、天地人、雪月花
③	接頭語+二字語になっているもの。	入学式、運動場、音楽家、回復力
④	上の二字が下の一字を修飾するもの。	理想的、植物性、自由化、芸術的
⑤	二字語+接尾語になっているもの。	副会長、短期間、新発売、長時間

次の三字熟語を種類別に分けて書きましょう。(6点×5問=30点)

英会話	入場券	不健康	心技体	高齢化	和洋中	未完成	再利用	人間性	観察眼
松竹梅	大中小	積極的	無防備	非常識	初対面	出席率	和楽器	近代化	首都圏
特異性	市町村	未開発	不合格	文化祭	衣食住	職員室	過保護	科学的	総選挙

①	三字それぞれが対等の関係にあるもの。	心技体	和洋中	松竹梅	大中小	市町村	衣食住
②	上の一字が下の二字を修飾するもの。	英会話	再利用	初対面	和楽器	過保護	総選挙
③	接頭語+二字語になっているもの。	不健康	未完成	無防備	非常識	未開発	不合格
④	上の二字が下の一字を修飾するもの。	入場券	観察眼	出席率	首都圏	文化祭	職員室
⑤	二字語+接尾語になっているもの。	高齢化	人間性	積極的	近代化	特異性	科学的

孔子は、世の中が平和に治まるように、人格や道徳を重んじる儒教の思想を広めることに生涯を捧げた思想家です。

「論語」は、孔子とその弟子(顔淵、子路、子貢)のやりとりを記録した書物で、全20巻に512編の短文が収められています。

「論語」は、「子曰はく(先生が言われた)」で始まる文章が多く、「子」は「先生」という意味で、孔子のことを指しています。

A～Fの訓読文を書き下し文に直し、後の問いに答えましょう。(4点×13問=52点)

A 子曰ハク、「過チテ而不レ改メ、是ヲ謂フレ過ト矣。」

(先生が言われた、「過ちをしたのに改めない、⑦これを過ちというのだ。」と。)

B 子曰ハク、「君子ハ和シテ而不レ同ゼ。小人ハ同ジテ而不レ和セ。」

(先生が言われた、「⑧君子は人と調和するが何にでも賛成しない。つまらない人は何にでも賛成するが人と調和しない。」と。)

C 子曰ハク、「学ビテ而不レバ、思ハ則チ罔シ。思ヒテ而不レバ、学バ則チ殆フシ。」

(先生が言われた、「⑨学んでも思わないのは、つまり理解していないのだ。思っても学ばないのは、つまり危険なのだ。」と。)

D 子曰ハク、「知ルレ之ヲ者ハ、不レ如カニ好ムレ之ヲ者ニ。好ムレ之ヲ者ハ、不レ如カニ楽シムレ之ヲ者ニ。」

(先生が言われた、「⑩これを知る者は、これを好む者に及ばない。これを好む者は、これを楽しむ者に及ばない。」と。)

E 子貢問ヒテ曰ハク、「有リ下一言ニシテ而可キニ以ツテ終身行フ之ヲ者上乎ト。」

(⑪子貢が質問して言った、「一言で表せて一生行にふさわしいことがあるでしょうか。」と。)

F 子曰ハク、「其レ恕乎。己ノ所ハ不レ欲セ勿カト施スコトニ於人ニ。」

(先生が言われた、「それは⑫恕であろうか。自分が望まないことは、他人にしてはならない。」と。)

① Aの書き下し文…子曰はく、「過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ。」と。

② Bの書き下し文…子曰はく、「君子は和して同せず。小人は同じて和せず。」と。

③ Cの書き下し文…子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆ふし。」と。

④ Dの書き下し文…子曰はく、「之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」と。

⑤ Eの書き下し文…子貢問ひて曰はく、「一言にして以つて終身之を行ふべき者有りや。」と。

⑥ Fの書き下し文…子曰はく、「其れ恕か。己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。」と。

⑦ 線⑦の「これ」の指す内容を、現代語で書きましょう。

[例] 過ちをしたのに改めないこと。

⑧ 線⑧の「君子」の意味として適切なものを一つ選びましょう。

ア 有名な政治家 イ 優秀な少年 **ウ 人格のある人** エ 権力をふるう人

⑨ 線⑨で「学んでも思わないのは」とありますが、ここでの「思う」はどのような意味ですか。

ア 書物から知識を得る。 **イ 自分の力で考える。** ウ 心で自然に感じる。 エ 知ったことを人に伝える。

⑩ 線⑩の「これを知る者は～これを楽しむ者に及ばない。」の部分で、孔子が伝えたかったのはどのようなことですか。

ア 楽しむことが大切だ。 イ 練習が上達の近道だ。 ウ 好きだけでは上達しない。 エ 苦手なことに挑むべきだ。

⑪ 線⑪で「子貢が質問して言った」とありますが、誰が誰に質問したのですか。

ア 先生が弟子に **イ 弟子が先生に** ウ 弟子が弟子に エ 先生が孔子に

⑫ 線⑫の「恕」の意味として適切なものを一つ選びましょう。

ア 怒りの心 イ 願いごと ウ 正義の心 **エ 思いやり**

⑬ 「孔子」について説明した文の□に当てはまる言葉を書きましょう。

孔子は、人格や道徳を重んじる儒教の思想を広めた思想家で、弟子とのやりとりを記録した書物を論語という。

曖昧な文は、「読点を打つ」か「語順を入れ替える」か「二文に分ける」と分かりやすい文に直すことができます。

例) 母はいつも頑張る私をほめてくれる。→「いつも頑張る」のか「いつもほめる」のか曖昧。

読点を打つ…母は、いつも頑張る私をほめてくれる。(いつも頑張る) 母はいつも、頑張る私をほめてくれる。(いつもほめる)

語順を入れ替える…いつも頑張る私を母はほめてくれる。(いつも頑張る) 頑張る私を母はいつもほめてくれる。(いつもほめる)

指示に従って、曖昧な文を分かりやすい文に直しましょう。(12点×5問=60点)

①	父親は急いで出発する息子を追いかけた。	
	読点を打って、「父親が急いでいる」という意味に。	父親は急いで、出発する息子を追いかけた。
	読点を打って、「息子が急いでいる」という意味に。	父親は、急いで出発する息子を追いかけた。
	語順を入れ替えて、「父親が急いでいる」という意味に。	出発する息子を父親は急いで追いかけた。
	語順を入れ替えて、「息子が急いでいる」という意味に。	急いで出発する息子を父親は追いかけた。
②	私は笑いながら走る妹に手を振った。	
	読点を打って、「笑いながら走る」という意味に。	私は、笑いながら走る妹に手を振った。
	読点を打って、「笑いながら手を振る」という意味に。	私は笑いながら、走る妹に手を振った。
	語順を入れ替えて、「笑いながら走る」という意味に。	笑いながら走る妹に私は手を振った。
	語順を入れ替えて、「笑いながら手を振る」という意味に。	走る妹に私は笑いながら手を振った。
③	兄は時々やってくる祖父と話をする。	
	読点を打って、「時々やってくる」という意味に。	兄は、時々やってくる祖父と話をする。
	読点を打って、「時々話をする」という意味に。	兄は時々、やってくる祖父と話をする。
	語順を入れ替えて、「時々やってくる」という意味に。	時々やってくる祖父と兄は話をする。
	語順を入れ替えて、「時々話をする」という意味に。	やってくる祖父と兄は時々話をする。
④	母は静かに私が話すのを聞いていた。	
	読点を打って、「静かに話す」という意味に。	母は、静かに私が話すのを聞いていた。
	読点を打って、「静かに聞いていた」という意味に。	母は静かに、私が話すのを聞いていた。
	語順を入れ替えて、「静かに話す」という意味に。	私が静かに話すのを母は聞いていた。
	語順を入れ替えて、「静かに聞いていた」という意味に。	私が話すのを母は静かに聞いていた。
⑤	妹は昨日書いた日記を破った。	
	読点を打って、「昨日書いた」という意味に。	妹は、昨日書いた日記を破った。
	読点を打って、「昨日破った」という意味に。	妹は昨日、書いた日記を破った。
	語順を入れ替えて、「昨日書いた」という意味に。	昨日書いた日記を妹は破った。
	語順を入れ替えて、「昨日破った」という意味に。	妹は書いた日記を昨日破った。

読点を打ち、語順を入れ替えて、より分かりやすい文に直しましょう。(10点×2問=20点)

①	彼は私が彼に昨日頼まれたことを忘れていたと思ったようだ。	
	[例] 彼に昨日頼まれたことを私が忘れていたと、彼は思ったようだ。	
②	鈴木君とサッカーを近所の公園でしている時に昨日ボールが道路に転がっていった。	
	[例] 昨日、近所の公園で、鈴木君とサッカーをしている時に、ボールが道路に転がっていった。	

長い文を二文に分けて、より分かりやすい文に直しましょう。(10点×2問=20点)

①	僕の家の方に住んでいる田中君のいとこの大学生のお兄さんには子供の頃によく遊んでもらった。	
	[例] 僕の家の方に、田中君のいとこの大学生のお兄さんが住んでいる。そのお兄さんには、子供の頃によく遊んでもらった。	
②	先週公民館の近くにある以前から興味を持っていた伝統工芸品の竹細工の工房へ見学に行った。	
	[例] 公民館の近くには、以前から興味を持っていた伝統工芸品の竹細工の工房がある。そこへ先週見学に行った。	

古典の動詞の活用は、未然形(…ず)、連用形(…て)、終止形(…。)、連体形(…もの)、已然形(…ども)、命令形(…！)です。
 動詞の活用は九種類で、未然形の「…ず」をつけて、ア段になるのが「四段活用」「ラ行変格活用」「ナ行変格活用」、
 イ段になるのが「上一段活用」「上二段活用」、エ段になるのが「下一段活用」「下二段活用」です。

四段活用 …ア・イ・ウ・エの四段で活用する。

例) 喜(ばず)(びて)(ぶ。)(ぶもの)(べども)(べ！)

ラ行変格活用 …四段活用とは、終止形が違う。

例) 有(らず)(りて)(り。)(るもの)(れども)(れ！)

ナ行変格活用 …四段活用とは、連体形と已然形が違う。

例) 往(なず)(にて)(ぬ。)(ぬるもの)(ぬれども)(ぬ！)

カ行変格活用 …「来」だけの特殊な活用。

例) 来(こず)(きて)(く。)(くるもの)(くれども)(こよ！)

サ行変格活用 …「為」だけの特殊な活用。

例) 為(せず)(して)(す。)(するもの)(すれども)(せよ！)

上一段活用 …イ段だけで活用する。

例) 見(みず)(みて)(みる。)(みるもの)(みれども)(みよ！)

上二段活用 …イ・ウの二段で活用する。

例) 起(きず)(きて)(く。)(くるもの)(くれども)(きよ！)

下一段活用 …エ段だけで活用する。

例) 蹴(けず)(けて)(ける。)(けるもの)(けれども)(けよ！)

下二段活用 …ウ・エの二段で活用する。

例) 受(けず)(けて)(く。)(くるもの)(くれども)(けよ！)

空欄に語幹・活用語尾・活用の種類を入れて、動詞の活用表を完成しましょう。(6点×10問=60点)

	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
①	売る	売	ら	り	る	る	れ	れ	四段活用
②	着る	(着)	き	き	きる	きる	きれ	きよ	上一段活用
③	居(を)り	居	ら	り	り	る	れ	れ	ラ行変格活用
④	蹴る	(蹴)	け	け	ける	ける	けれ	けよ	下一段活用
⑤	捨つ	捨	て	て	つ	つる	つれ	てよ	下二段活用
⑥	死ぬ	死	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね	ナ行変格活用
⑦	思ふ	思	は	ひ	ふ	ふ	へ	へ	四段活用
⑧	来	(来)	こ	き	く	くる	くれ	こよ	カ行変格活用
⑨	落つ	落	ち	ち	つ	つる	つれ	ちよ	上二段活用
⑩	す	(す)	せ	し	す	する	すれ	せよ	サ行変格活用

古典の助動詞には、「～している」という完了の存続を表す「たり」や、「～した」という過去を表す「けり」などがあります。

古典の助動詞の終止形はイ段で終わるものが多いです。例) たり…(たらず)(たりて)(たり。)(たるもの)(たれども)(たれ！)

「ぞ・なむ・や・か」がつくと文末が連体形(ウ段)、「こそ」がつくと文末が已然形(エ段)になることを、係り結びの法則といいます。

係助詞の「ぞ・なむ・こそ」は、前の語を強調します。例) 花こそ咲きたれ。「花が咲いている。(花を強調)」

係助詞の「や」は、「はい/いいえ」で答えられる疑問を表します。例) 花や咲きたる。「花が咲いているのか？」

係助詞の「か」は、「はい/いいえ」で答えられない疑問を表します。例) いくにか花咲きたる。「どこで花が咲いているのか？」

次の文の「A 現代語訳」「B 係りの語」「C 結びの語」「D 結びの語の活用の種類」を書きましょう。(5点×8問=40点)

①	雨ぞ降りたる。	A…雨が降っている。	B…ぞ	C…たる	D…連体形
②	雨こそ降りたれ。	A…雨が降っている。	B…こそ	C…たれ	D…已然形
③	雨や降りたる。	A…雨が降っているのか。	B…や	C…たる	D…連体形
④	いくにか雨降りたる。	A…どこで雨が降っているのか。	B…か	C…たる	D…連体形
⑤	雪なむ降りける。	A…雪が降った。	B…なむ	C…ける	D…連体形
⑥	雪こそ降りけれ。	A…雪が降った。	B…こそ	C…けれ	D…已然形
⑦	雪や降りける。	A…雪が降ったのか。	B…や	C…ける	D…連体形
⑧	いくにか雪降りける。	A…どこで雪が降ったのか。	B…か	C…ける	D…連体形

